

平素より医療関係者・介護関係者のみなさまには、若松在宅医療・介護連携支援センターの事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

【研修会のご報告】

○令和6年度多職種連携合同研修会（5月31日開催）

『在宅緩和ケアとACP～息子の看取りを経験して～』

講師：かえでホームケアクリニック 顧問 関本 雅子 先生



皆さんは「**自分でトイレに行けなくなった時、どんな場所で誰にお世話をしてほしい？**」ですか。関本先生は、自分の人生の最終段階を考えたくない方でも、支援

をする上で、最低限これだけは確認していると仰っていて、私だったら…と思わず

考える機会となりました。また、息子さんの闘病の経過をお話いただく中で、

○**病状のその時その時で気持ちは変わる**（「(癌の脳転移のため) 混乱して騒いだりしたらホスピスに入れて」「意識レベルが下がったら、そのまま何もなくていいから」→症状が出てくると「(脳転移で) トロトロ寝ていて、家族がそのままでも傍で生きていてほしいと思ったら、点滴してもらおうかな…」）

○**本人が自分の意思を伝えることができなくなった時の代理意思決定者(本人の気持ちをよく分かってくれている人)の存在の大きさ**（それまでの積み重ねてきた会話が大切な道標になる）

上記を改めて教えていただきました。大切な方を看取ると、あの時…とか、もしも…など、どんなに最善を尽くしても納得できない気持ちを抱えることもあります。しかし、ACPを重ねて、「その人」らしさを支援者で共有し、一つ一つ納得しながら選択していくことで、そんな残された方々の心を少しでも軽くすることにもつながります。

患者・利用者のACPも然りですが、ご自身のACPにも取り組んでみませんか。まずは自分の好きなもの、大切にしたいことを皆さんの大切な方、信頼する方とお話してみてください。



【普及啓発で実施しています】

もしバナゲームをご存知ですか。もしバナゲームとは、「**もしもの時のことを気軽に話し合えるカードゲーム**」です。人生会議はだれもが大切なことだとわかっています。しかし、なんとなく「縁起でもないから」という理由で避けている方もいらっしゃると思います。このカードを使えば、そんな難しい話題を考えたり話し合ったりすることができます。また、ゲームを通して、友人や家族に「あなたの願い」を伝え、理解してもらうきっかけ作りにもなります。周りの人々とも**もしバナゲーム**をしておくと、いざという時の**自分が大切にしたいこと**について判断がしやすくなるのです。興味のある医療・介護関係の方は、当センターまでお声掛けください。



【とびうめ@きたきゅうの登録状況】



いつも登録促進にご協力いただき、有り難うございます。5月末までの新規登録者数は45,171名、うち若松区内4,679名の方に新規登録いただいています。とびうめ@きたきゅうは、介護保険を申請する際に申請書で同時に登録申請することが可能です。介護保険の新規申請若しくは更新申請の際は、是非利用者さんにとびうめ@きたきゅうについてもお声掛けいただけると幸いです。引き続き登録促進にご協力をお願いいたします。